

末法

善への渴望と悪への渴望
安穩への渴望と混乱への渴望
喜びへの渴望と哀しみへの渴望
それら相對峙するものの全てに玩ばれ
魂をずたずたに引き裂かれ
墮ちるがいい、餓鬼道へ

苦惱への救い難い贊美
自己陶醉への救い難い埋没
虚栄に次ぐ虚栄
それらどす黒い哄笑に埋もれ
自ら己が目をえぐり出し
墮ちるがいい、畜生道へ

常軌を逸した不安に取り巻かれ
無言の日の光に耐えきれず
自ら夜の暗闇を呼び寄せ
それらの果てしない繰り返しに

疲労さえ感ずる暇いとまもなく
墮ちるがいい、修羅界へ

信ずるものとしてない
愛するものとしてない
不安と恐怖があるばかりだ
しかも自由だ、自由なのだ
ああ、この上に自由だとは
救いなど何処にもあるまい

(1986.1.25)